

終章

神奈川大学は、創立者 米田吉盛が「質実剛健」「積極進取」「中正堅実」を建学の精神として掲げ、「学理の研鑽に合わせてかつ其の応用力を会得せしめて実際に役立つ人物を養成する」ことを基本理念として、横浜桜木町に開設した横浜学院が前身である。創立より 90 年余りを経て、第 3 期認証評価受審となった 2021 年には、発祥の地である桜木町に隣接する「みなとみらい地区」に新たなキャンパスを開設した。みなとみらいキャンパスには、2020 年に新設した国際日本学部、外国語学部、経営学部のグローバル系 3 学部が集約され、今後、周辺の国際企業や官公庁、文化施設などとの産官学連携をさらに強め、独自の教育・研究を展開していくこととなる。

本学は、2018 年度にみなとみらいキャンパス計画、新学部開設と既存学部の再編、理学部の横浜キャンパス移転など横浜キャンパスの整備事業を見直す「キャンパス新総合計画」を将来構想実行計画として取りまとめ、これらの計画を実現するための財政計画である「中長期財政計画（2018-2028）」を策定し各計画を進めてきた。2020 年度には「中期計画（2020-2024）」も策定し、序章においても述べている通り、みなとみらいキャンパス開設のみならず、学習成果の可視化をさらに進めるべく、全学的な教育組織の新機軸の検討及び新たな教育プログラムの開始などの学部教育の充実を図っている最中であり、大学としても大きな変革期を迎える中での認証評価の受審である。

内部質保証の体制としては、内部質保証体制を強化するため、委員会の構成員に委員長以外の全副学長、学部長、研究科委員長を新たに構成員に加えるよう神奈川大学自己点検・評価規程第 3 条を改正し、学長のリーダーシップの下、全学レベルでの内部質保証を担保するため、責任の所在を今まで以上に明確化し、内部質保証体制の強化を図った。自己点検活動においては、ここ数年、全学的な教育上の課題に対し自己点検・評価全学会が積極的に関わり、教学の改革を推進している教学改革委員会とも連携し全学的な対応を進めてきた。これらを踏まえ、現在、内部質保証の責任を担う自己点検・評価全学委員を発端とした、教育改革に邁進している。

しかしながら、本学の内部質保証に関しては、中長期的な視点に欠けることや、各学部依存した教育の質の保証への取り組みなど、課題も残っている。そのため、自己点検・評価全学委員会の構成員を強化するだけでなく、全学的な教育・研究上の課題に対応し、教育活動の実務を全学的に取りまとめる組織として基盤教育機構（仮称）の構築が進んでいる。

今回の認証評価受審をカタリストとし、本学の更なる教育活動の充実のため、基盤教育機構（仮称）や自己点検・評価全学委員会が中心となり、学長のリーダーシップのもと、改善活動に取り組んでいきたい。

以上